

第6学年A組 学級活動（1）指導案

授業者 渡部 誠一郎
研究協力者 森 和彦

1 活動題 後期の学校生活のめあてを考え、実践しよう

2 子どもと活動題

(1) 子どもについて

子どもたちは、最上級生としての自分の役割や立場を自覚しながらこれまで学校生活を送ってきている。「どのような学級にしていきたいか」を議題として話し合う活動を通して、学級テーマや合い言葉を決めたり、学校行事への取組について学級全体で話し合ったりすることなどを通して、自分自身や学級集団としての成長を自覚している子どもが多い。一方で、「もっと学級内での絆を深めたい」「リーダーとしてより望ましい姿になりたい」と感じている子どももいる。

学級の諸問題を解決したり、自分たちの生活をよりよくするためのアイデアを出し合う場として、学級活動の時間を大切にしてきた子どもたちである。反面、時間内に合意形成することがなかなかできなかったり、発言の回数に偏りが見られたりすることが課題として挙げられる。

(2) 活動題について

本活動で子どもたちが形成すべき資質・能力を、自分たちの前期の学校生活における課題を見だし、後期の学校生活の目標を立てるために話し合い、よりよく合意形成を図ったり、意思決定したりすること、ととらえる。学校生活・理想のリーダー像を目指して過ごしてきた子どもたちは、そこで、目指したい学校生活のあるべき姿をとらえ直し、そのために大切にしたいキーワードを話し合って実践することを見通して、本活動題を設定した。

小学校生活最後のはとの子運動会。中でも、応援賞6連覇に向けて、本学級の子どもたちはよりよいパフォーマンスを目指して、連日話し合いを重ねてきた。応援賞は果たせなかったものの、話し合いの結果最高のパフォーマンスができたという充足感が得られた。子どもたちの意識は、「後期の学校生活をより充実させたい」という思いにつながっているに違いない。この思いを大切に話し合い活動につなげていく。

小学校生活締めくくりの半年間どのようにして学校生活を過ごしていきたいのかを明確にし、そのために必要なことは何かを考え具体化していく活動の中で、考えがまとまらずに困難に直面することもあるだろう。それを乗り越えるためにまた話し合い、目指すゴール、目指す理想像を具体化し、実践へとつなげていく。試行錯誤を繰り返すことで、互いのがんばりを認め合い、決定した取組の実現に向けて努力していくことができるようにしていきたい。

(3) 指導について

本活動では、学校・学級の形成者という視点から課題を見だし、後期の学校生活をより充実したものにするために実践することについて、異なる立場の意見を受け止めながらよりよく考えること、を具体的な見方・考え方としている。そこで、子どもたち一人一人が自分の思いを互いに伝え合い、学級全体での話し合いを通して洗練しながら合意形成を図ることができるよう「スパイダー討論」を意識した取組を取り入れる。具体的には、ルーブリック評価を用いて、どの子どもがどのように発言したのかをクモの巣状に記録し、ふり返りの場面で教師側が提示する。これをもとに、話し合いの様子が可視化され、主体的に話し合いに臨む姿が高まり、次の話し合いに生きる省察がなされるものと考えられる。

活動のスタートとして、一人一人が前期の学校生活の成果と課題を確認した上で、後期の個人目標を設定し、カードに書き込む時間を設定する。それをもとに話し合うことで、学級として目指す理想の学級を明確にもつことができるようにする。さらに、附属中学校の総合的な学習の時間の研究発表会の参観を活動の中に位置付けることで、卒業時の自分たちの姿をイメージすることができるようになるだろう。これまでの経験と最上級生としての意識の高揚をつなぎ合わせることで、全員が「自分事」として話し合う姿につながるものと考えられる。

具体的な取り組みの話し合いにおいては、互いの考えのよさを生かしながら建設的に話し合うことができる子どもの姿を目指す。そのために、司会グループとの事前打ち合わせを綿密に行う。まず、議題に対する考えを事前に書き込んだ学級会カードを回収し、意見の傾向を把握しておくようにする。その上で、話し合いの方向性を見定めることができるようにするために、意図的に全体に紹介したい意見を選んだり、司会グループとして意見をまとめたりようにする。その際、他と組み合わせたり、一つにまとめることが可能な考えを予想したりするよう助言する。このような事前打ち合わせを経て、プラス思考の話し合いを展開させることを通して、後期のよりよい学校生活の実現に向けた自分たちのあるべき姿が一層明確になったり、そのために取り組むべきことが具体的に見えてきたりするものと考えられる。

実践に向けて準備をしたり、実際の活動をしたりする際には、一人一人が自己有用感を高めることができるよう、適材適所を生かした役割分担を取り入れる。さらに、活動全体のふり返りをする際には、自己評価のみならず相互評価の場を充実させることで、集団の一員としての達成感を味わうことができるようにする。そして、目指してきた学級・学校像に近付き、集団として成長できたことを実感することができるようにしていきたい。

3 活動の目標（記号は本校の資質・能力表による）

- (1) 自他の思いを大事にしながらか進んで話し合い、決定したテーマに従って協力して活動に取り組もうとする。
- (2) 話題を的確にとらえ、複数の意見を比較したり、賛否を明確にしたり、代案を示したりしながら、互いの考えのよさを生かして話し合うことができる。

〈19・25・26・28・29・33〉

- (3) 話し合いによる集団決定の仕方が分かり、役割分担を工夫しながら活動を進める方法を理解する。

4 活動の構想 (総時数 3 時間) ※「見方・考え方」を働かせた学習活動

教育実習生の先生を送る会をしよう

児童の活動	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
<p>後期の学校生活に向けて目指したい姿のイメージをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6 年後期の学校生活のスタートにあたって、後半の学校生活の見通しがもてるように、事前にめあてを記入する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 6 年生後半の学校生活について、自分なりの目標をもっている。
<ul style="list-style-type: none"> 議題を知る。 考えを学級会カードに記入する。 司会グループ、提案者とともに打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をもった上で話し合いに参加することができるように、あらかじめ学級会カードに記入させておく。また、ふり返り際には話し合いをクモの巣図に記録したものを教師が提示し、次時のよりよい話し合いへとつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題に対しての自分の考えをもっている。
<p>学級活動 (1 時間) ○ 6 年生後半の学校生活に向けて、目指したい学級像を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの課題を明らかにし、より目標とする姿が具体的に設定できるように、附属中学校の参観を活動の一環として組み入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなの意見を生かした話し合いを目指して、話し合いの運営に必要な準備をしている。
<p>※ 附属中 Dove Academy (総合的な学習の時間の研究発表会) を参観する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって進行できるように、学級会カードに書かれている考えを整理しながら取り上げる意見や、話し合いの方向性について、司会グループと事前に話し合いを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点に沿って、複数の意見を比較したり、部分的な賛否を明確にしたり、代案を示したりしながら、互いの考えのよさを生かして発言したり、考えたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> 附属中学校の参観をもとに、目指したい学級像を見直す。 学級で実践していきたいことについて自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点を明確にしながらか主体的に話し合いに参加できるように、発表の際には、必要に応じて資料を提示したり、問題点も敢えて指摘したりするよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点に沿って、複数の意見を比較したり、部分的な賛否を明確にしたり、代案を示したりしながら、互いの考えのよさを生かして発言したり、考えたりしている。 (イ-19・25・26・28・29・33)
<ul style="list-style-type: none"> 議題を選定する。 議題を知る。 考えを学級会カードに記入する。 司会グループ、提案者とともに打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点を常に意識して参加できるように、考えの根拠が視点に沿っている発言を価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> クモの巣図の結果をもとに、次時以降の課題意識をもち、ふり返りを書いている。
<p>学級活動 (1 時間)【本時】 ○ 学級で実践していく活動について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの意見をもとにしながらその後の話し合いをつくり上げていくことができるように、小グループでの話し合いには司会グループの子どもたちも分散して参加するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団決定の仕方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 議題を選定する。 議題を知る。 考えを学級会カードに記入する。 司会グループ、提案者とともに打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい話し合い活動へとつなげていくために、本時の発言傾向を記録したクモの巣図を紹介して、次時以降の話し合いへの課題意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担をもとに協力し合って活動の準備を進めている。
<p>学級活動 (1 時間) ○ 後期の学校生活で取り組むことを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> よりよい話し合い活動へとつなげていくために、本時の発言傾向を記録したクモの巣図を紹介して、次時以降の話し合いへの課題意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に責任をもち、協力し合って活動している。
<ul style="list-style-type: none"> 活動について、個々の具体的な取組を決める。 分担を決め、準備に協力して取り組む。 		
<p>○ 話し合いによって決まった実践事項に取り組む。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 活動をふり返る。 		

◎本活動で育む主な資質・能力
自分たちの前期の学校生活における課題を見いだし、後期の学校生活の目標を立てるために話し合いよりよく合意形成を図ったり、意思決定したりすること (イ19)

◎本活動の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
学校・学級の形成者という視点から課題を見いだし、後期の学校生活をより充実したものにするために実践することについて、異なる立場の意見を受け止めながらよりよく考える。

学級の仕事を見直そう

5 本時の実際 本時 (2 / 3)

(1) ねらい

前時までの話し合いや今の学級の現状と参観した附属中の先輩方の姿との比較をもとに、理想とする後期の学級像に近付くための学級全体での具体的な取組について考え、話し合うことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	① 議題や話し合いの視点、話し合いの柱について確かめ、見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の見通しをもつことができるように、議題や話し合いの視点について確認する時間を設定する。
	議題： 「理想とする後期の学級」像に近付くための、学級全体での具体的な取組について考えよう。	
35分	(話し合いの視点) ※話し合いの柱2において <ul style="list-style-type: none"> 目指す「理想とする後期の学級」像に近付くための取組になっているかどうか。 中学校の参観を生かした、より高いレベルを目指した取組になっているかどうか。 ② 目指したい「理想とする後期の学級」像と、そのイメージを反映させた取組について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点に沿った意見をもった上で話し合いに参加することができるように、また、司会グループがあらかじめおよその考えを把握できるように、事前に学級会カードに意見を記入する時間を設定する。 前時のふり返りの際に提示したクモの巣図をもとに本時の話し合いのめあてをあらかじめ立てておくように指示する。 話し合いの中で思いついたアイデアや、友達の考えを生かしながら自分の考えを深めていくことができるよう、学級会カードのメモ欄を活用するよう促す。 話し合いの柱1については、小グループごとのまとめを照らし合わせ、共通点をもとにしながら目指したい「理想とする後期の学校生活」像を焦点化した話し合いができるよう、事前に司会グループと打ち合わせをしておく。 話し合いの柱2については、話し合いの方向性を的確にとらえて発言することができるよう、司会グループと相談しながら「『理想とする後期の学級』像に近付くための取組とは、どのようなものか」に立ち返って考える場を設定する。また、「理想像を生かした取組は△だが、中学校生活を意識すると□の方がふさわしいのではないか」といった、部分的な賛否を明確にした意見を採り上げ、互いの考えのよさを生かした発言へとつなげていく。 少数派の意見にも耳を傾けたり、それぞれのテーマのよさを視野に入れた建設的な意見を出したりしている場面を取り上げ、理想的な話し合いの姿として価値付けていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 話し合いの視点に沿って、複数の意見を比較したり、部分的な賛否を明確にしたり、代案を示したりしながら、互いの考えのよさを生かして発言したり、考えたりしている。 〈イ-19・25・26・28・29・33〉 (発言・学級会カード) </div>
5分	③ 話し合いをふり返り、今後の活動について見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> よりよい話し合い活動へとつなげていくために、本時の発言回数などを記録したクモの巣図を紹介して、次時以降の話し合いへの課題意識をもたせる。 話し合ったことを生かして今後の取組に生かそうとする意欲と自己有用感をもつことができるように、子どもたちの話し合い活動を称揚する。